

2025 年度 学校関係者評価委員会報告書

学校御関係者評価委員会(自己点検・自己評価)を行いました。その結果を下記のとおり報告します。

1. 日 時 : 2025 年 7 月 25 日(金)19:00~20:10
場 所 : 会議室
2. 出席者 : 評価委員……九州大谷短期大学 客員教授(学識経験者)
九州保健福祉大学 非常勤講師(学識経験者)
筑後市立病院 看護部長(企業等委員:専門分野関係者)
学生保護者(PTA:看護科学生保護者)
筑水会病院 看護師(卒業生:同窓会役員)

職員 ……医師会長・学校長
医師会副会長・学校担当理事
副校长
准看護科教務主任
看護科教務主任
事務長
事務次長(進行)

3. 議題

- 1) 八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価について(副校长)
これまでの取り組みの経緯について
・准看護科、看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表。
- 2) 2024 年度学生状況について(准看護科・看護科)(副校长)
- 3) 2024 年度准看護科評価結果について(准看護科 教務主任)
○ホームページにて公表
- 4) 2025 年度准看護科重点課題について(准看護科 教務主任)
○ホームページにて公表
- 5) 2024 年度看護科評価結果について(看護科 教務主任)
○ホームページにて公表
- 6) 2025 年度看護科重点課題について(看護科 教務主任)
○ホームページにて公表

7) 意見交換・質疑応答

- (学校) これ迄の委員会で、委員の方からのご意見で改善してきた点があることを紹介。例えば、実習衣のデザインを変更し、准看護科から看護科まで4年間使用できるようにした。またSNSを活用し、Instagramでの配信を開始した。学生数が減ったこともあり、准看護科・看護科が同じ校舎で学び、学生間の交流を深めている。
- (委員) この学校の歴史や看護を目指す人は一般的に4年制の看護大学に行く方が多いのか、また社会人の受験(子育てしながら看護の資格取得を目指す)も多いのか。
- (学校) 本校は1970年に准看護科を開校し55年目を迎える。昔は学生も多かったが、近年看護大学が増えていることで、高校生(新卒者)の入学は減少している。
大学が全入時代となり、高校側も大学への進学を勧める傾向にあるようだ。
社会人が減っているため対策が必要。
- (委員) 本校と自校の課題が似ている。保育士が足りていないのに入学生が集まらず経営が厳しい。
この専門学校は存続の意義があると思う。大学には進学できないが、看護師を目指す人への受け皿となっていると思う。
講義をする中で、自分に大きな影響をもたらした人を書いてもらった時に、准看護科護科の先生や担任の先生に支えられて今があるという生徒がいた。
- (学校) 高校の先生の話を聞くと看護職の希望者の割合は減少してはいないが、全体の生徒数として高校も定員割れとなっている所もあるようだ。
- (委員) 大学との経費の違いは大きいと思う。経済的に厳しい学生は専門学校を選ぶと思われる。
- (学校) 社会人(特に子育てしながらの)へのアプローチを強化していくと、先日保育園の保護者会に於いて、本校をアピールする機会を頂いた。看護職に対して敷居が高いと思われているのではないかと感じ、門徒を広げる為「入りやすくなっている」と伝えた。

(委員) 本校で講義をする中で、この学校の先生方を見てきて、あたたかい学校だと感じている。
定員充足率を増やすことが一番の課題のようだが、経済的支援を行い社会人入学者を増やし、地域に根差した学校として存続して頂きたい。
先ほどの保育園の訪問も、実際子育てをしながら頑張っている学生を同行しPRするのも良いのではないか。

(委員) 私はこの学校で4歳と1歳半の子育てをしながら入学し、准看護科から看護科へ進学し今看護師として勤務している。
子育てしながらでも卒業できるということを伝えたいと思う。

(学校) オープンキャンパス時に、卒業生からのビデオメッセージとして、子育てしながら入学して、卒業した学生や、本校准看護科から看護科へ進学した学生、他校准看護科から本校看護科へ進学した学生等、様々な状況だった学生の話を視聴してもらっている。

(委員) 自校のオープンキャンパスで取り入れていることを紹介された。
今の子は楽しいことが好きなので、学生が考えたことだが、先生方の写真の缶バッジやティッシュ箱などを作成したり、一緒に物作りをするなど楽しい内容で人を集めることが一番だと思う。

(学校) 学生のアンケート結果を見て頂くとわかるように、「教員のサポート・近づきやすい存在」が低い。ここは捉え方が難しく、学生との距離感が近すぎてもいけないし、看護師としての姿勢を育てるには多少厳しくしなければいけないこともあると思う。

(委員) 実習場所で、どれだけ先生方が対応されているかが大事なのではないか。
いつでも先生が近くにいるとわかると、学生も安心すると思う。

(学校) 教員は毎日実習場に行っている。以前に比べ学生の要求度が高くなっているのか。

(委員) 先生方は十分近づきやすいと思う。

(学校) 自分たちは話しかけているつもりだが、学生の心に届くには何が足りないのか分からない。

(委員) 学生は先生の顔を見るだけで安心すると思う。

(学校) 指導者からは「何もしなくてよいから、学生のために実習場に来てください」とよく言われる。実習場と学内では緊張感も違うので、実習指導と学内での関りは変えている所がある。もっと距離感が近い関係を求めているのか。状況によってメリハリも必要だと思うが、今の若者が求めるもの、価値観の違いを感じる。

(学校) アンケートを取る文言が「近づきやすい」という表現を変えた方がよいのか。「頼れる存在」など今後検討する必要があると考える。

(学校) 学生(本人)たちの意見なので、教育の内容は影響されなくて良いと思う。近年、本校の学生状況も変化してきているが、一般的に今の子どもたちは周囲に流されやすい、対面で話をするのが苦手な子、SNSなどが中心でしゃべらない子が増えてきていると言われている。

(委員) 21世紀型の子どもの弊害。
これまでレールが敷かれてきている為、自分で考える力が弱い。
今は、子ども達が何をしたいのか主体性を育む教育になってきている。

(学校) ゆとり教育は決して否定しない。しかし低学年の時にはある程度のおしつけ教育が必要な時もある。

2025年度 第2回学校関係者評価委員会(将来構想委員会)議事録

日 時 : 2025年11月21日(金)18:30~19:55

場 所 : 会議室

出席者 : 医師会……会長・副会長

学校……副学校長・准看護科教務主任・看護科教務主任・事務次長(進行)

外部……筑後市立病院院長・公立八女総合病院看護部長

筑水会病院看護部長・福島高等学校校長

※欠席:医師会事務長・八女学院高等学校進路指導部長

1. 開会(18:30)

2. 委員長挨拶(医師会長)

3. 委員紹介(自己紹介)

4. 議題

1) 看護基礎教育の現状と本校の課題・本校各科の学生状況について

- ・ 委員会設置趣旨、我が国の看護教育の動向について(副学校長)
- ・ 本校の学生動向について(両科教務主任)
- ・ 学生確保に向けた対策について、現在の課題について(副学校長)

5. 意見交換 ※敬称略

(進行) 資料に沿って説明が終了。全国的な流れと本校の現状を報告。

今後の改善に向けたご意見を頂きたい。

またそれぞれの施設・学校の現状をお聞かせください。

(委員) 当校も3学年ともに定員を満たしていない。

しっかり授業を行うことに力を入れ、各中学校へアピールしている。

しかしアクセスが悪いのがデメリットとなっている。

看護学校はInstagramへの掲載内容はどのようなものがありますか。

(学校) 学生が楽しんでいる雰囲気や教科外活動・演習風景などを掲載している。

(委員) 学校生活の楽しいイメージを伝えたり、年1回だけでもイベントなどを掲載されるのも良いと思う。

(学校) 地域の防災訓練や健康フェスタなど、学生が参加している様子を掲載している。看護のことだけでなく、楽しい学校生活に出来るだけ興味を持ってほしいと思う。Instagram の内容も、卒業生からは好評だが、現役の学生からはもっと楽しい雰囲気を掲載してほしいとの意見がある。教職員も毎週トピックスを探して頑張っている。

(委員) 学校生活をリアルにイメージをもてるような Instagram 作りがよいと思う。

(委員) 筑後地区の校長先生方との交流会の機会があり、高校も全国的に少子化の影響を受けているとの事。背景がそうなので、看護学校も定員を満たさないのは仕方ない。努力はされていると思うが、時代背景に沿って考える時期ではないか。人口が減少すれば、学校も病院も減らざるをえない。収支が見えないので何とも言えないが、それも併せて考えなければいけない。

(委員) 当病院の教育師長からは、八女筑後看護専門学校の教育は社会人として働くことをきちんと指導されているという意見を聞いている。また、学生募集での保育所への取り組み等も参考になり、今後取り入れていきたいと思う。当病院も Instagram や TikTok を活用していく。Instagram よりも TikTok の方が若い方には人気が高いと聞く。2040 年問題に向けた看護師育成の道は重要になってくる。学校の収支(運営)は見えないが、別の市でも活用されていると聞いているふるさと納税を活用して、八女市が看護師養成の補助を出していただけるとよい。また、外国人受入れについての考えを聞きたい。

(学校) 病院が技能実習生として受け入れることが前提。ミャンマーとインドネシアの方で、日本語がある程度のレベルに達している人でないといけない。働きながら学び、病院からの奨学金が必要となってくる。それだけのお金を出せるか? 生活面での助成も必要。県医師会もマッチングできれば良いとの回答。病院から学校までのアクセスや、学校に行く技能実習生と、働くだけの技能実習生の格差をどうするかなど、待遇の違いなどを見た時に、中々手を挙げていただくことは厳しい。

(委員) 現実的に考えなければならないと思った。学校側の考えを聞きたい。
病院は人材不足で正直厳しい状況。今後外国人の力は必要だと思う。
学校も Instagram や SNS 発信など駆使されている。新卒でくる方は少ないので、
社会人のターゲットを絞るのも一つの方法ではないかと思う。

(学校) 市町村から奨学金の情報等をとっている。これまでシングルマザーは多かつたが、今は他職種の給料が高いので、集まらなくなっている。

また先ほどの意見のように、ふるさと納税の一部を学生に補填するという試みを行っている所もある。その地域で本当に医療従事者が必要という所で積極的に考えたい。

収支については 40 人定員でも退学者を考えると補助金も減る状況になる。

この地域での社会的意義として考えるなら、行政が考える必要もある。使命感だけでは厳しい。

長期的にみるのか短期的にみるのか、また筑後地区のグループとしてみるのか、准看護科を廃止して看護科のみにするのは考えられない。最近は准看護科の入学者が減っているので、看護科の運営も非常に厳しい。大学もしかり。

(学校) 美容系の専門学校は全国から学生が集まると聞いた。

ファッション・美容業界は学生が集まるようだ。少子化でも人気のある職種には人は集まる。コロナ禍から看護に対するイメージが悪くなつたのではないか。

(学校) 医師も美容に行く時代である。

(委員) 医師会の医院やクリニックの先生方は、職員募集に苦慮されていますか。

(学校) ハローワークに出しているがこない。

(委員) 医師会の先生方から学校に対しての意見は無いですか？
(学生が就職しないことに対して)

(学校) 予算委員会時に、収支に対して何人の学生がこの医師会管内に残るかと聞かれる。若い学生は、卒業時は都会に行きたがるが、数年したら地元に帰つてくる。

(学校) 一時的には、福岡市や関東関西に就職しても、何年かしたら地元の病院や医院等に戻つてきている。

(学校) 実際の数字を出せばわかつてもらえると思うが、新卒者の割合でデータしかだせない。

(学校) 学生が集まる学校の特徴を聞くと、楽に卒業できるところという。
しかし、私たちは現場に出すからには責任を持って卒業させたい。
質の担保と学生を集めのレベルの加減が難しい。
学生の集まりやすい学校と看護職としての質の担保をどう考えるのかが難しい。

6. 今後に向けて

(学校) 学生確保が難しくなり、学校経営自体が厳しい状況と言える。今後の少子化や社会情勢、看護教育を考えると入学者数の増加は望めないのではないか。しかしこの地域の医療・看護を維持するためにも、看護を志望する者が他へ流出することなく地元で看護師になれる、そして質の高い看護者を輩出していく必要があると考える。現在入学生の確保と、学生像の転換、看護の魅力を伝える教育方法の工夫などを努力している。今後はオンデマンドによる他校との連携など経費削減対策を見出していく必要がある。

(学校) これといった対策案が他に思いつかない。
厳しい中にもこの学校を地域の中で活かしながら存続していくなければならない。
行政に働きかけていくことも一つの案である。
全国的に病院は無くなる。医療従事者は不足、今後の医療はどうなっていくのか。

(委員) できればこの地域の病院で、八女筑後看護専門学校の出身者数の調査をしてはどうか。市などに働きかけやすいのではないか。

(学校) 高校では看護系の進学者は大学志向ですか？

(委員) 前任の学校ではほぼ大学進学であった。
当校は、進学者の5割が専門学校、5割が大学進学。
看護師希望者は割合的には減ってきている。

(進行) 本日は貴重なご意見ありがとうございました。

7. 閉会の挨拶

(学校) 現状としてこのデータそのもので波におされてますが、職員は頑張っている。
学校として良い学校なので、今後共先生方のご協力の程宜しくお願ひします。